

# 地域ケア会議実践例

担当課 青森市健康福祉部高齢介護保険課  
実践例提供 青森市地域包括支援センターのぎわ

## 【概要】

79歳男性、H21年に母が亡くなってから一人暮らし、年金受給、介護認定なし、コンビニとJAからほぼ同時期(8月下旬)に対応について市に相談があり、圏域の地域包括支援センターが担当した事例。

## 【地域からの情報】

### ●コンビニ

春頃から様子がおかしくなり、朝来ていたのが、最近夜中2時~3時頃に来て通帳を持参し通帳を預けたいなど意味不明なことをいう。また、お金を持たずに買い物に来る。

### ●JA

2ヶ月くらいの間に毎日のように来るようになった。ATMにはがきを入れようとしていたり、解約したいなど何を言っているのかよくわからない。車を運転してきているので危ない。他の金融機関にも何回も行っているようだ。

### ●ガソリンスタンド

ガソリンを毎日入れに来る。入っていると説明しても毎日少しだけ入れていく。

## 【生活状況】

空き缶を仕分けするなど几帳面さもうかがえるが、居間は足のつき場がない状態。朝から飲酒しており、車を運転する。炊飯器を使用している形跡がなく、お菓子等を食べている模様。暑い家の中で長袖・長ズボンを着用しており脱水症状が心配、入浴はしていない。

## 【問題】

(緊急の問題) 服薬管理、医療機関受診、店等への対処、金銭管理、車の問題

(その他問題) 飲酒、清潔面、栄養面、湿疹

## 地域ケア会議開催

いとこ、知人、町会長、民生委員、地区社協連合町会会長、JA職員、郵便局員、精神科医、精神保健福祉士、社会福祉協議会職員、駐在所署員、青森市高齢介護保険課職員、地域包括支援センター職員

対象者の医療機関受診、介護認定申請、成年後見制度の利用につながった。

## 【地域課題】

認知症高齢者を地域で支えるために

- 地域関係者が認知症についての知識や理解を深める必要がある
- 地域包括支援センターの役割についてもっと知っていただく必要がある

金融機関から認知症高齢者をどのように地域包括支援センターにつないでいけばよいか目安が欲しいということで後日、地域のJA・郵便局・金融機関の職員との地域ケア会議を開催し、地域包括支援センターの業務内容の説明や、各金融機関での認知症高齢者の対応について意見交換を行った。また、駐在所からは地域での連携を深めるために今度は消防署も一緒に地域ケア会議を開催して欲しいという要望が出たため、今後、開催する予定である。

## 【成果】

対象者の支援をきっかけとした顔の見える関係づくりにより、地域の金融機関やコンビニなど認知症高齢者の見守り体制の強化につながる意識共有ができた。また、金融機関等に地域包括支援センターパンフレットを設置してもらうなど、地域包括支援センターとの連携体制ができた。